



小学生・中学生の皆さんへ あらかわ区報 Jr.

ジュニア

ARAKAWA KUHO JUNIOR

No.164

11.14

2024年[令和6年]

発行：荒川区 発行部数：23,000部
〒116-8501 荒川区荒川2-2-3
☎(3802)3111



ゆいの森あらかわにある

吉村昭記念 文学館に 迫ろう！

『戦艦武蔵』

などで知られる作家の吉村昭さんは、昭和2年(1927)、



ひぐらし小学校の「吉村昭コーナー」には本人からの寄贈本も

東日暮里に生まれ、現在のひぐらし小学校に入学しました。今回、その後輩にあたるひぐらし小学校のジュニア記者が、ゆいの森あらかわ内にある「吉村昭記念文学館」を訪問。荒川区で生まれ育った作家の人生に迫ります。

[問合せ]吉村昭記念文学館 ☎(3891)4352

吉村昭記念文学館

ゆいの森あらかわに併設。展示室では、作品とともに、幼少期の思い出や79年の人生、自筆原稿や取材ノート、手紙、愛用品などを紹介しています。



次は12月に発行する予定です

荒川区出身の有名作家の書斎を拝見

吉村昭の息づかいを感じよう

「吉村昭記念文学館」では、吉村さんの人生をパネルや自筆原稿など、さまざまな資料とともに紹介しています。中でも目を引くのが、晩年の書斎を再現したコーナー。作家気分になって、足を踏み入れてみましょう。

吉村さんにとっての書斎

新築した家の庭に建てた書斎は、吉村さんにとって創作の場であり、安らぎの場所でもありました。一日のほとんどを書斎での執筆に費やし、作品に魂を込めていました。

本棚

郷土史の資料、地図、記事のスクラップなど吉村さん所有の資料がズラリ。

日記

「当用日記」という日記帳を愛用。その日の出来事や天候を記載。

万年筆

パーカー製などを愛用。原稿用、下書き用、手紙用など使い分けていました。

取材ノート

たくさん積まれた取材ノート。多くの人に会い、聞いた話を細かく記録。

たくさんの資料を見てこんなに努力が続けられる人なんだ！と感じました

神田 陽斗さん

吉村昭ってこんな人!



荒川区で少年時代を過ごす

現在の東日暮里に生まれ、第四日暮里尋常小学校(現在のひぐらし小学校)へ入学。18歳まで荒川区で過ごしました。

全国を旅して小説を書いた

自分で事実を確かめることを大切に、各地に足を運びました。丁寧な取材と調査から描かれる作品が高く評価され、史実を忠実に表現した作品が多いことも特徴です。

病氣や戦争に負けず執筆を続ける

子どものころから大病に悩まされ、戦争で自宅や家族を失いながらも、命の大切さを見つめて作品の執筆に生かしました。

夫婦ともに作家として活躍

妻の津村節子さんは、芥川賞など、多くの文学賞を受賞している作家です。夫婦で励まし合いながら、ともに作品を世に送り続けました。

矢田部 在さん

身近なところにいる方だと知って自由研究のテーマにしてみました

写真立て

椅子に座ると、夫婦で仲良く並ぶ写真が目に入ります。

辞書

毎日使う辞書は欠かせない相棒。小説を書く時は、何度も辞書をひき、正しい言葉の使い方を確認しました。

金庫

完成した原稿用紙と、火事に備えコップ一杯の水を入れていました。

椅子

取材を終えたあとは書斎の椅子に座る時間を楽しみにしていたそうです。

原稿用紙

妻の津村節子さんとともに、浅草の「満寿屋」の原稿用紙を愛用。

まだまだあります 吉村昭記念文学館

関係者のインタビュー映像など、館内限定映像が楽しめる映像コーナーのほか、著作を手にとって読めるコーナーも。

展示室で紹介された著作がズラリ。気になった作品を読んでみては



津村節子さんや作品の関係者の貴重な証言を聞くことができます



いつかはみんなに読んでほしい

吉村昭作品のおすすめ

荒川区

冬の鷹

昭和51年 / 新潮文庫刊



荒川区が舞台の歴史小説! 医者で蘭学者の前野良沢と杉田玄白は、オランダ語の解剖書を翻訳し『解体新書』を出版。二人の対照的な人生を描きました。

戦艦武蔵

戦艦武蔵

昭和46年 / 新潮文庫刊



昭和13年(1938)から、4年をかけて造られた戦艦「武蔵」。その建造計画から沈没までを描き、戦争とは何かを問う作品。吉村さんのベストセラー小説。

歴史小説

雪の花

昭和63年 / 新潮文庫刊



福井の町医者、笠原良策が主人公。良策は、天然痘(伝染病)から人々を救うため、命がけで、江戸時代に種痘(予防接種)を広めました。

エッセイ集

東京の下町

平成元年 / 文春文庫刊



吉村さんが、ふるさとの日暮里で過ごした思い出を生き生きと描いたエッセイ集。昭和初めの暮らしや、町並みを知ることができます。

文学讀イチャオン

熊嵐

昭和57年 / 新潮文庫刊



大正4年(1915)、北海道で、巨大なヒグマが次々と村人を襲った事件を基に、自然と人間の関わりを描きました。ハラハラ、ドキドキの展開!

吉村昭記念文学館からのお知らせ

10:20~12:18 桜田門外ノ変



桜田門外ノ変 企画展

12月18日(水)まで開催

休館日●11月21日(木)、12月6日(金)

会場●ゆいの森荒川3階企画展示室

吉村さんが連載をした「桜田門外ノ変」に関する資料や自筆原稿などを紹介しています。みんなも幕末の世界を味わってみよう!



作家・吉村昭 O X クイズ

- Q1 吉村昭・津村節子夫妻は二人とも文学賞を受賞しています。
- Q2 吉村昭さんが一番多く取材に訪れたのは、「戦艦武蔵」のテーマとなった長崎県です。
- Q3 取材では、カセットテープに証言者の話を録音することもありました。

答えは4面にあります

Close-up



第一中学校の羽石さんがフェンシング全国大会で優勝しました

第一中学校3年の羽石祐丹さんが、7月に岐阜県で開催された「第10回全国中学生フェンシング選手権大会」で優勝しました。

羽石さんは小学3年生からフェンシングを始め、女子エペの種目で優勝し、8月29日、高梨教育長に大会の優勝を報告しました。



▲優勝を報告する羽石さん

瑞光バレーボールクラブが全国大会で3位に入賞しました

瑞光バレーボールクラブが、8月に開催された「第44回全日本バレーボール小学生大会」混合の部で第3位となりました。

このクラブは、南千住地域の小学生を中心に、約40名が活動をしています。10月7日に、高梨教育長に大会の報告をしました。



▲入賞を報告する瑞光バレーボールクラブのメンバー

作家・吉村昭のQ&Aの答え

A1 ○ 吉村昭さんは『星への旅』で太宰治賞を受賞しました。津村節子さんは『玩具』で芥川賞を受賞。

A2 × 最も多く訪れたのは、『巖窟』や『破獄』などの舞台、北海道。次いで多く訪れたのが長崎県です。

A3 ○ ノートなどにメモを取るだけでなく、音声を録音して資料にすることもありました。書斎再現コーナーにも録音機が置かれているので、探してみよう。

日暮里道灌まつり開催!

日時: 11月23日(祝) 午前10時~午後3時
場所: 日暮里駅前イベント広場



おまつりの内容をチェック!

太田道灌ゆかりの地の自治体などの皆さんと一緒に、名産品の販売やステージイベントを行います。

紙芝居の上演やカッコイイ武士の甲冑隊のステージショー、ステキな名産品の販売など盛りだくさんのイベントだよ。ぜひ、遊びに来てね!



太田道灌ゆかりの自治体・店舗による物産販売・PR

ご当地グッズややきとりなどの名産品、荒川区ゆかりの江戸東京野菜である三河島菜の販売などを行います。



ステージイベント

おまつりを盛り上げる演出をたくさん用意しています。家族やお友達と一緒に見に来てね!



手作り甲冑着付け体験

神奈川県伊勢原市の伊勢原手作り甲冑隊の甲冑を着てみよう!



太田道灌とは

太田道灌は、室町時代に江戸城を作った人物として知られています。区内には、江戸城の出城があったと伝わる日暮里の「道灌山」や、三河島(現在の荒川地域)に残る「山吹の里伝説」、南千住の石浜神社周辺にあったと伝わる、道灌が支援した武蔵千葉氏の「石浜城址」など、太田道灌のゆかりの地が多くあります。



太田道灌を大河ドラマに

太田道灌ゆかりの自治体や民間団体によって、太田道灌を大河ドラマ化するための署名活動が行われています。



新 あらかわ今昔ものがたり

その1



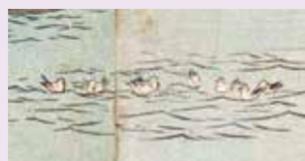
都鳥~隅田川ゆかりの鳥~

【問合せ】荒川ふるさと文化館 ☎(3807)9234

「あらかわ今昔ものがたり」愛読者の皆さん、こんにちは。今回から新装開店。新連載が始まるよ。これからもよろしくね!
隅田川ゆかりの鳥 隅田川の昔の名前は「荒川」。これが荒川区の名前の由来になっているのは、「あらかわ今昔ものがたり」最終回を読んでくれたみんなは知っているよね。

じゃあ、その隅田川にゆかりのある鳥は何だ? もしかすると見たことがあるかもしれないよ。そう、都鳥っていう鳥だよ。冬になると北の方から渡ってくるユリカモメのあだ名が都鳥っていうんだ。ん? 電車のゆりかもめなら知っているって? そう、港区と江東区を結ぶ「新交通ゆりかもめ」は、都鳥の別名から採られた名前なんだよ。

『伊勢物語』と都鳥 都鳥が日本の歴史に登場するのはとっても古い。平安時代に作られた『伊勢物語』に載っているんだ。主人公の在原業平が京都から東国にやって来て、隅田川を船で渡ろうと



したところ、白くてくちばしと脚が赤い鳥が目に入った。

京都では見たことのない鳥だったので渡り守に聞いてみたところ、「都鳥」って答えが返ってきたものだから、思わず次の和歌を詠んだ。
名にし負はばいざこと問はむ 都鳥
わが思ふ人はありやしやと
遠く離れた京都にいる恋しい人を思い出したんだね。

江戸時代も都鳥 そして江戸時代に入っても都鳥は隅田川ゆかりの鳥として、浮世絵にいろいろ描かれたんだよ。絵師が誰であっても同じような形で描かれているのが特徴で、その絵の形のままのおもちゃまであったんだって。

季語としての「都鳥」 都鳥は隅田川だけでなく、冬を連想させる俳句や和歌の季語にもなった。冬に飛んでくる渡り鳥だからだね、都鳥って。

もうじき、都鳥が飛んでくるかもしれないよ。隅田川の近くを通ったら探してみよう。平安時代から飛んでいると思うとなんだかすごいね。

写真/歌川広重画「東都名所図会隅田川渡しの図」部分 (国立国会図書館デジタルコレクション)